

専門過程：CAD/CAMで歯科技工はどう変わるか？

近年のデジタル技術の発達は、歯科界のこれまでの構造に大きなインパクトを与えてきました。熟練した手作業による匠の技の時代から、CAD/CAMによる削り出しに置き換わり、今後はデジタルデータによる技工物製作が始まるであろうことは、想像に難くありません。例えば、印象採得はデジタル光学印象へ、模型製作は、CAMによる削り出しや3Dプリンターによるプリンティングへとシフトするでしょう。チェアサイドにおいても口腔内スキャナやCTが注目されており、今後は診断から補綴物製作に至るまで、データを中心とした一連の輪で繋がり、口腔内情報をデータで授受する時代に突入するでしょう。たとえ、情報が多く集まる首都圏から遠く離れていても、データやテレビ会議等を通じて、あたかも隣にいるかのように治療計画立案から補綴物設計・製作を行うことも可能なのです。まさに今、歯科技工士は、デジタル技工についての知識と技術が求められ、それを応用する時代に来ているのです。

歯科技工は匠の技とデジタルが融合した新しいステージへと現在進行形で移行中です。本講演では、歯科技工現場の観点から、当社におけるデジタル技工に対する現時点での取り組みをお伝えするとともに、IDS2017に参加して得た世界の歯科最新情報についてお伝えします。また、このような機械化・情報化の時代だからこそ、省力化を図るのではなく、人財の育成が重要である点についてもお伝えします。